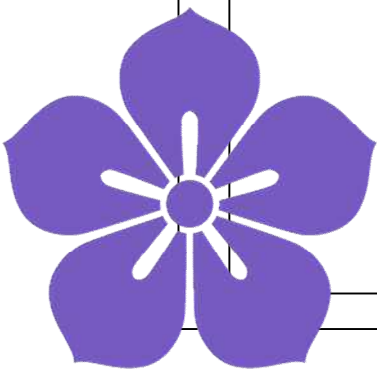


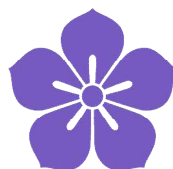
# 第1回

光秀ゆかりのまち亀岡

俳句大賞 表彰作品



【大賞『明智光秀賞』】



# お正月わたしの天下三日間

大阪府立南港桜小学校 2年 國原 真桜さん

〈講評〉 三日天下は光秀、あなたは三が日の自由。気分、よく分かるよ。

【亀岡市長賞】

〈小学生の部〉

近づけば遠のいてしまうシャイな霧

亀岡市立川東学園 6年 平井 美佳さん

〈講評〉 霧の神秘さを表現し、自らの体験で感じた不思議な光景と、霧で遊ぶ楽しい光景を思い起こす一句。

【亀岡市教育長賞】

〈小学生の部〉

ゆきだるまつくったあとのあかいゆび

有田町立有田中部小学校 1年 大友 優俐さん

〈講評〉 白い雪だるまと赤いゆび、色の対比も鮮やかで、遊んでいる子どもの姿が目には浮かぶ。

〈中学生の部〉

光秀も見ていただろうかこの桜

亀岡市立詳徳中学校 3年 太田 康介さん

〈講評〉 山野辺の桜が咲く景色を通して、戦乱の光秀の時代にタイムスリップしたかの如く、桜を楽しんでいる光景が思い浮かぶ一句。

〈中学生の部〉

年越前テストという名の関ヶ原

東山中学校 2年 黒木 智さん

〈講評〉 2学期末テストの重みを関ヶ原と結びつけた発想がおもしろいね。

〈一般の部〉

登校の野路ゆく声や丹波霧

京都府 亀岡市 井上 實さん

〈講評〉 丹波の朝霧の中、どこからともなく子ども達の声が聞こえる。寒くても元気に登校していることを喜ばしく思う一句。

〈一般の部〉

コスモスを摘んで保津川下りかな

大阪府 大阪市 安保 美恵子さん

〈講評〉 亀岡コスモス園から保津川下りへ。亀岡の豊かな自然を楽しんでいる。

【審査員特別賞】

〈小学生の部〉

雪だるま次の日なぜかいなくなる

八幡市立八幡小学校 4年 秦 文詠さん

〈講評〉 雪だるまと遊んでいたんだね！

その出会いと別れいいね。

【優秀賞】

〈小学生の部〉

キリの町亀岡のキリ食べれそう

亀岡市立安詳小学校 4年 太田 歓喜さん

〈講評〉 食べたくなるくらいすてきなんだね、亀岡

の霧は。

あけるまでひみつのなかみお年玉

八幡市立八幡小学校 5年 石田 弥桜さん

〈講評〉 「ひみつのなかみ」にどきどきする、それが

お年玉ですね。

アユモドキつゆにたまごを生むんだよ

亀岡市立安詳小学校 3年 田邊 凜子さん

〈講評〉 「アユモドキ」を夏の季語としてどンドン

俳句にしたい。

〈中学生の部〉

冬の朝言葉が白く目に見えた

京田辺市立田辺中学校 3年 松本 雅さん

〈講評〉 夏の朝ならどう？

言葉が赤く染まっているかもしれないね。

〈中学生の部〉

霧がきたそしてもうすぐ麒麟がくる

亀岡市立詳徳中学校 3年 志賀 大和さん

〈講評〉 霧から麒麟が飛び出すイメージがいいな

あ。大河ドラマが楽しみ！

朝霧は太陽招く案内人

亀岡市立亀岡中学校 3年 前田 悠一郎さん

〈講評〉 亀岡のキャッチコピーみたい。

亀岡の朝霧に会いたくなる句だ。

あったのか霧がはれば亀山城

亀岡市立川東学園 7年 中川 拓海さん

〈講評〉 不意に現れた亀山城が神秘的。

光秀もいるみたい。

〈一般の部〉

熱燗の一献明智光秀へ

大阪府 高槻市 田 彰子さん

〈講評〉 一瞬の歓喜に目を輝かせている悲劇の武人

〈一般の部〉

手帳には「光秀まつり」大きな字

群馬県 吾妻郡 金子 歩美さん

〈講評〉 この句によって「光秀まつり」は

夏の新しい季語になった。

枯葉舞う亀岡駅でハイタッチ

京都府 京都市 吉田 酔女さん

〈講評〉 ハイタッチが粋、舞う枯葉も。

冬の霧うみたて卵の朝ごはん

京都府 京都市 つじ あきこさん

〈講評〉 うまそう！ 霧の朝、亀岡で卵かけ

ごはんを食べてみたい。

【奨励賞】

〈小学生の部〉

コスモス園行けばストレスなくなるよ

亀岡市立安詳小学校 6年 山本 健人さん

サンタサン3年前はスリムだよ

八幡市立八幡小学校 3年 河田 海晴さん

新米だ母が食べすぎ太りすぎ

八幡市立八幡小学校 6年 吉田 梨紗さん

とうげごう赤いもみじがひろがるよ

綾部市立吉美小学校 2年 米田 綾里さん

すいはんきあけたら金色くりごはん

綾部市立吉美小学校 2年 河井 千紗さん

ラーメンのゆげがさわられるさむいふゆ

有田町立有田中部小学校 1年 村尾 透真さん

レジ横の肉まんぼくをじつと見る

尾鷲市立矢浜小学校 5年 東源之助さん

床暖房ねこのまさこも快適だ

尾鷲市立矢浜小学校 5年 黒美結さん

風にのるボールを追って秋の空

淡路市立学習小学校 6年 田中 墨翔さん

秋の空目指せ一本背負い投げ

淡路市立学習小学校 6年 相田 一真さん

秋の空トトロといっしょに森の中

淡路市立学習小学校 6年 高橋 芽生さん

コスモスに「かわいいね」っていわれたよ

こども園あつぷる 4歳 西川 志織さん

〈中学生の部〉

アユモドキすきまのほうがおちつくの

亀岡市立亀岡中学校 2年 津田 俊祐さん

山眠る僕も一緒にねようかな

亀岡市立亀岡中学校 3年 木虎 悠さん

霧の町来る人来る人黒い影

亀岡市立東輝中学校 3年 佐々木 悠真さん

冬椿赤組代表歌います

京田辺市立田辺中学校 3年 山本 大暉さん

響くのはシャーペンの音雪の音

京田辺市立田辺中学校 3年 丸岡 好さん

除夜の鐘もうちよいほしいインパクト

京田辺市立田辺中学校 3年 大畠 爽楽さん

北風は過去問を解くBGM

京田辺市立田辺中学校 3年 清水 聖さん

草紅葉行くも帰るも外国人

東山中学校 2年 大下 寅次さん

アユモドキ少年時代がよみがえる

京都教育大学附属桃山中学校 2年  
高野 結月さん

初霜やドラミングするオスゴリラ

京都教育大学附属桃山中学校 3年  
干場 政孝さん

カシオペア今日は見えると袖をひく

静岡大学教育学部附属静岡中学校 2年  
南雲 円香さん

つつじ吸う二人の大きなランドセル

静岡大学教育学部附属静岡中学校 2年  
竹下 帆音さん

智将在り霧立ちのぼる山城に

静岡大学教育学部附属静岡中学校 3年  
大村 修子さん

陽炎や鯉の動きのはげしき日

湖南市立甲西中学校 3年 奥村 一咲さん

〈一般の部〉

文化の日明治の地図で歩く町

京都府 八幡市 磯部 洋子さん

亀岡の空は刈田の広さかな

京都府 舞鶴市 小見 伸雄さん

冬霧の奥より薪を割る響き

京都府 京都市 才野 洋さん

呼び止めの上手が居たり日向ぼこ

京都府 福知山市 塩見 瑞代さん

光秀の治水や今に豊の秋

京都府 亀岡市 嶋崎 豊子さん

朝霧や夫の菜園甘くなる

京都府 亀岡市 塚本 郁子さん

亀の子たわし定位置にあり冬日和

京都府 京都市 平田 和代さん

トロツコの列車の鼓動風薫る

京都府 京田辺市 古野 由美子さん

牛松山と婆のご機嫌春耕す

大阪府 高槻市 久保 エミさん

手土産のふくらみは餅母来たる

大阪府 茨木市 寺川 千春さん

音源は恋する心蟬時雨

東京都 世田谷区 石川 昇さん

舞う紅葉亀岡パズルのワンピース

東京都 武蔵野市 本田 隆道さん

城跡の隣りは母校朴若葉

神奈川県 横浜市 今村 千登士さん

芋ふかすところどころに鍬の傷

神奈川県 大和市 河村 美恵子さん

## 🌸 開催内容 🌸

### 【開催趣旨】

世界で最も短い詩である「俳句」は、自己を表現する魅力的な手段の一つであり、日常の感動を表現することで心身がしなやかになると言われています。

また、2020年大河ドラマの主人公に決定した亀岡ゆかりの武将「明智光秀」が詠んだ「時は今 天が下知る 五月哉」の詩は非常に有名であり、大河ドラマ決定の機会に、全国から亀岡をテーマに詠まれた俳句を募集することで、亀岡の魅力を全国に発信するとともに、俳句文化に触れる機会を創出し、次世代を担う青少年の健全育成と生涯学習の更なる推進を目指します。

### 【募集作品】

- 光秀ゆかりのまち亀岡を題材として詠んだ句
- 自由句

※一人合計2句まで

### 【募集部門】

- ・小学生の部
- ・中学生の部
- ・一般の部

### 【賞】

- 大賞「明智光秀賞」 1句
- 亀岡市長賞 各部門1句（計3句）
- 亀岡市教育長賞 各部門1句（計3句）
- 審査員特別賞 各部門1句（計3句）
- 優秀賞 各部門3句（計9句）
- 奨励賞 数点

### 【選考委員】

- 山折哲雄 (宗教学者)
- 坪内稔典 (俳人)
- 植山俊宏 (京都教育大学教授)
- 名村早智子 (俳人)
- 火箱ひろ (俳人)
- 井上菜摘子 (俳人)
- 桂川孝裕 (亀岡市長)
- 田中太郎 (亀岡市教育長)

# 応募結果・講評

## 【募集作品】

○全体 7,101句

小学生の部	1,651句
中学生の部	3,570句
一般の部	1,880句

たくさんのご応募ありがとうございました。

## 【講評】

### ○全体

小学生の「近づけば遠のいてしまうシャイな霧」のシャイな霧という言い方は魅力的、霧がすてきに見えます。

中学生の「冬の朝言葉が白く目に見えた」は、白い息と言葉が重なっていて、今まさに言葉が生まれようとしているのです。

以上のような小・中学生のことばに対して、一般の部はややたじたじ、言葉が古い印象でした。でも、「冬の霧うみため卵の朝ごはん」のような亀岡のすてきな朝ごはんを見つけてくれました。

### ○小学生の部

応募された1,651句のすべてに作者の発見、経験、思いが詠まれていて、すばらしい感性を感じました。中でも、入選した19句には、亀岡の「霧」や天然記念物の「アユモドキ」の他、「雪だるま」、「お正月」、「サンタ」などの年中行事の楽しみや、「コスモス」、「新米」、「もみじ」、「くりごはん」、「肉まん」、「秋の空」などの四季の豊かさが詠み込まれて、小学生の発見力、観察力、そして五七五のリズム感やぴたっと決まる言葉にも感心しました。

### ○中学生の部

3,570句も応募があり、うれしかぎりでした。入選句20句には、京都以外の滋賀、静岡の作品もあり、地域的な広がりを感じました。「光秀」、「亀山城」、「山城」などの歴史の句、「霧」、「アユモドキ」といった亀岡の句、「テスト」、「シャーペン」、「過去問」などの試験の句が特徴的でした。「初雪」と「ゴリラ」、「つつじ」と「ランドセル」などの取り合わせ、「関ヶ原」、「言葉が白く」、「案内人」という効果的な表現も印象に残りました。

### ○一般の部

この俳句大会をきっかけに亀岡市民のみならず他府県の方々にも亀岡市や光秀のことに関心が寄せられたことに大きな意義を感じます。

作品は「暮らしに根付いた市民の作品」「当地に足を踏み入れ吟行することで得られた作品」「遠隔地より当地や光秀を思いやった作品」「自由題」にほぼ分けられますが、どの作品も力作でありました。今後更に、当地の特徴を生かしたこの大会ならではの作品が生み出されることを期待します。

# 生涯学習都市宣言

わたくしたち亀岡市民は人間の尊重と  
地域社会の一員としての自覚のもと  
常に いま 何をなすべきかを  
問いかけ合いながら  
生涯にわたり学び続け自己を高め  
連帯の絆を強めることにより  
生きる喜びと明るく豊かなまちに住む  
喜びの持てる亀岡を目指し  
ここに亀岡市を「生涯学習都市」  
とすることを宣言する

昭和63年3月30日 告示

